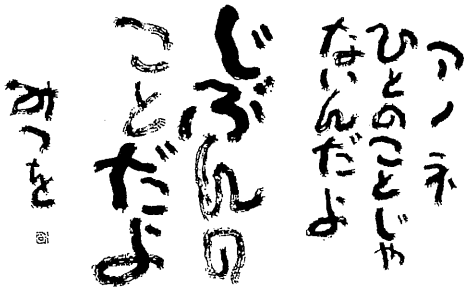


さくら第458号

平成30年2月

## さくら

発行所 さくらそろばん  
発行者 平瀬重雄  
春江町境 17-7: Tel.51-1337  
hirase@mx2.fctv.ne.jp

## 『見た目をアップしよう』

「人は見た目が9割」竹内一郎著・新潮新書という本があります。人は何かを伝えたい時にいろんな方法を使います。逆にいえば、様々な情報から人は相手が何を言いたいかを言葉以外の情報からも知ることができます。

アメリカの心理学者アルバート・マレービアン博士は他人から受け取る情報の割合を次のようにいっています。

相手を判断するには、見た目・身だしなみ・仕種・表情が55%を示し、声の質(高低)・大きさ・テンポから38%の情報を得、話す言葉の内容は7%の情報伝達を示すとのことです。

第一印象が大事、第一印象で相手の事をほぼ判断するともいいます。初めて会う人がどんな人なのかを判断する決め手はパッと見た時の印象で決める人が多いといっています。

さて、ふだんのそろばんの練習中の態度や話し方や仕種などから私はいろいろな事を判断します。気分が良い時とそうでない日では、声の質や表情がずいぶんちがいます。

初めて会う人をどのように判断するかは、やはりその時の見た目で決めるようです。その人の性格や考え方、どのような仕事をしているかなどは言葉遣い、話し方、服装、持ち物、髪のかたちや色などでも判断するでしょう。人間は見た目でだいたいのことを決めるようです。

さて、そろばんの練習中のようすなどを見てみると特に気になることが2つあります。

まず1つ目は、エンピツの持ち方です。塾報「さくら」でも何回となく取り上げていますがとても悪い人が20%あまりいます。字は書ければよいからどんな持ち方でもかまわないのでしょうか。よい持ち方は30%ほどであとの50%の人はまずまずです。

エンピツの持ち方が悪いと書いていて疲れますし、字を速くきれいに書けません。きっと、ハシの持ち方も悪いと思います。

2つ目は、計算中の姿勢です。右手で計算しますが、左手はそろばんを持たずにいつも机の下です。正座している人の中には、床に左手をつけるので肩が下がっています。とうぜんこのことですが背骨が曲がっています。

エンピツの持ち方を直すよう何度となく言いますが、返ってくる言葉は「言われた持ち方ではうまく書けない。今のほうが楽」と言います。いつもの悪い持ち方に慣れてしまうとふつうの持ち方をするとやりにくいのです。

悪いおこないを続けていると正しい行いに切り替えるのがめんどろになるのです。悪いやり方を改めようという気持ちを1週間持ち続けてがんばればきっとよくなるのですが、今までの楽な方法に流れてしまうのです。人生80年以上、この悪いエンピツの持ち方を続けるのかと思うと残念です。見た目がとても悪いのに…。

走るのが速い人はフォームがとてもきれいです。スイミングスクールで練習した人と自分流に泳ぐ人とではかっこよさがとても違います。

フアッションモデルやタレントを真似する必要はないですが、見た目が悪い人はずいぶん損をします。その人のことをあまり知らなければ見た目だけで相手を判断します。パソコンやメールが使えればそれでいいから、エンピツの持ち方などささいなことはどうでもいいと思う人がいるかも知れませんが、大人になって社会で仕事をする時に、見た目が悪い持ち方より見た目に美しい持ち方の方のほうがスッキリさわやかです。ささいなことだからこそ見た目アップを試みましょう。気分がよくなります。